北海道白糠養護学校

学校だより

第４号　令和元年１２月２５日発行
発行責任者　　校長　菅原　康之

【お問い合わせ先】
北海道白糠養護学校　学芸部
〒088-0351　白糠町和天別１４７―２
TEL／FAX　　01547-2-5353
代表メール　hakuyou@hokkaido-c.ed.jp
HP http://www.shiranuka-yougo.hokkaido-c.ed.jp/

２学期の終わりに寄せて

北海道白糠養護学校　教頭　小　栗　陽　介

12 月になり白糠町も気温がぐっと下がり、雪は少ないですが冬の寒さに包まれてきました。児童生徒は大きく体調を崩すこともなく、元気に登校しています。長かった２学期もおかげさまで無事に終えることができそうです。保護者の皆様には行事や参観日など、たくさんのご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、まったくの個人的な思いで恐縮ですが、２学期で思い出に残った学習ベスト３を発表したいと思います。

まずは第３位、小中学部の「中国語で交流しよう」です。白糠町は中国の福建省廈門市杏林区という町と交流をしていますが、中国語の ALT である「徐（ジョ）」さんをお招きしての学習でした。自己紹介では、出身地の「紹興（ショウコウ）」という町の様子を教えてもらいました。簡単な挨拶文を使って挨拶をしあったり、パンダ（ションマオ）とウサギ（トウツ）の違いを、問題を出し合ったりしながら学習しました。中国の文化を知り、先生の発音を聞いたり、しゃべったり、選んだり、それぞれの方法で楽しく学習しました。子どもたちの充実した笑顔が見られた授業でした。

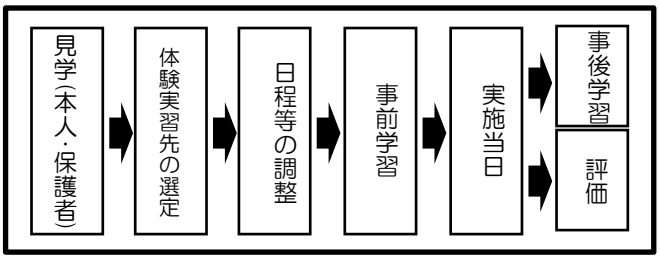
続いて第２位、高等部の「販売学習」です。１１月１９日（火）に白糠町役場で行いました。私は後半の１５分くらいを見させていただきました。すでに開店直後の忙しい時間を過ぎていたため、お客さんはまばらでしたが、本校生徒の元気なかけ声が遠くからも聞こえました。役場の正面玄関から入ってすぐのホールで、手作りのティッシュケースやカード立て、入浴剤などを販売しました。全く緊張せずに接客する生徒や、緊張しながら先生と一緒に「ありがとうございました」と伝えたり、派手さはありませんが、自分なりの方法で接客したり、全員が真剣に取り組んでいたと思います。ティッシュケースひとつとっても、生徒がこつこつと、一針一針作る姿を私は見ています。思いのこもった製品が人々の手に渡ることに感慨ひとしおでした。来年の２月にも校内で実施しますので、期待したいですね。

そして第１位は、肢養体です。８月３０日（金）にインターネット回線を使って全校で参加しました。スクリーンに映った他校と交流しながら、ボールを使う競技（投競技）と移動する時間を競う競技（走競技）にそれぞれ参加し、校内で順位を競いました。それぞれが練習の成果を出し、当日は練習で見られなかったハイレベルな接戦もありました。運動会とは違って、ルールに沿った競争です。子どもたちには貴重な経験となったのではないでしょうか。

振り返ると他にも学習発表会や旅行的な行事など、書き切れないほど盛りだくさんの２学期でした。冬休みは、この子どもたちの成長をご家庭で振り返っていただけると、自信につながるのではないでしょうか。３学期は１月２０日（月）からです。始業式には、また元気な姿を見せてほしいと思います。

卒業後の生活を想像しながら～進路指導について

本校では、高等部２、３年生を対象に、卒業後の生活において予測される課題を把握し、今後の学校生活や進路決定の参考にしつつ、進路を決めた前提・移行支援を目的として社会体験学習（現場実習）を行っています。今年度は高等部２年生の４名が、将来の生活を想像し実際に体験するという目的で、福祉事業所・施設で社会体験学習を行っています。内容や日数は、生徒の実態や希望に合わせて設定します。流れとしては【図１】のようになります。



【図１　社会体験学習の流れ】

今年度は、まず年度初めに進路の学習を行い、将来どんな生活が待っているのかを知り、自分なりに将来のためにどんな力をつけたらよいのかを考え、目標を立ててみることから始めました。（高等部ホールに掲示してあるので、是非一度見てみてください。）そして日々の学習の中で力をつけつつ、社会体験学習に臨みました。この学習を通して、学校、学園以外の施設の生活の流れや、年齢差のある利用者さんや指導員さんとの関わり、活動を体験し、普段の生活との違いを肌で感じてきたようです。

また、高等部３年生の社会体験学習では、卒業後に利用することを前提として行うことが多いため、日中の活動が実態に合っているかという他にも、食事やトイレ、入浴は利用できる状況か、その施設ごとに違う利用者さん間の関係性、雰囲気が生徒にとってなじめるのかなど、様々な視点をふまえて選択することが必要です。これらは、見学だけでは分かりにくく、実際に体験する（生徒によっては複数日）ことで分かることが多くあります。「成人とは」「社会とは」という概念がこの社会体験学習を通して形成され、それぞれの自己理解、自己実現につながればと考えています。

しかし、高等部の社会体験学習で、初めて社会と触れ合うわけではありません。小学部や中学部段階でも、様々な校外学習や宿泊学習などがあり、地域の方々や、公共交通機関、大型施設等に関わる人など自分を取り巻く多くの人と触れ合ってきています。日々の学習の積み重ねにより力をつけ、学校とは違う環境の中でその力を発揮できるかどうか試したり、新たなことを学んできたりして、徐々に社会に羽ばたく準備をしています。

学校・保護者・白糠学園・地域が連携を図り、子ども達一人一人がより良い社会生活を実現できるよう、今後とも本校の教育活動にご理解ご協力をお願いいたします。

（相談支援部：池田　千春）

令和元年(2019 年)度　公開授業研究会

12 月 18 日（水）に、令和元年(2019 年)度　北海道白糠養護学校　公開授業研究会が行われました。多くの方が本校の教育活動に興味を持ってくださり、近隣の学校職員の方々や、北海道教育大学釧路校の学生の方々、また福祉事業所の方等、多方面より参加を頂きました。当日は自作教材展についての説明や、各学部の授業公開、また『「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり』を研究主題として行ってきた２ヵ年の校内研究の概要について等の話をお聞き頂き、参加者の皆様からは貴重なご意見や感想を頂戴することができました。頂いた意見につきましては、今後の本校の教育活動や校内研究活動に活かしていきたいと思います。多くのご参加、誠にありがとうございました。

（研究部：柳田　花菜）

白糠町特別支援学級・学校「合同社会見学」

小学部・中学部

１１月１４日（木）に白糠町の特別支援学級の児童生徒のみなさんと合同社会見学に行きました。昨年に引き続き、パレスボウルでボウリングを楽しみました。

今年度は小学生同士、中学生同士でグループ編成を行ったため、同世代の友達と会話を楽しんだり、ハイスコアが出たときにはハイタッチで喜びを共有したりと有意義な時間となりました。小学部５年生の児童が、参加児童生徒の中で見事３位の成績をおさめ、会場から大きな拍手をもらい大きな自信につながりました。

合同社会見学に毎年参加をすることで他校の友達との距離も少しずつ縮まってきています。同世代の友達からの「エネルギー」や「刺激」をたくさん受けて有意義な一日となりました。

（小学部：佐藤　茂枝美）

中国語で交流しよう！

小学部・中学部

本校では毎年、白糠町教育委員会と白糠高校にご協力をいただき、異文化コミュニケーションを目的とした中国語の学習を実施しています。今年度は、１２月２日（月）に白糠高校の本間教諭、１２月３日（火）と１０日（火）に白糠町教育委員会からジョ先生にお越しいただきました。本間教諭からは、中国語の４つの特徴的な発音や挨拶の仕方を教わり、ジョ先生からは、数字の数え方、挨拶、動物の名前等を教わり、それらを活用して一緒にゲームに取り組みました。子供達は、中国の伝統的な衣装に興味をもって触れたり、先生方の中国語の発音を真似したりと、とても積極的に活動していました。

（中学部：伊藤　ルナ）

販売会～白糠町役場～

高等部

11 月 19 日（火）に白糠町役場の玄関ホールで、作業学習や自立活動の時間に製作した製品を販売しました。生徒にとって、学校の外で役場の方や町民の方に販売する機会は大変貴重なものになっています。

今年度は、３名の生徒が情報の学習で販売会に向けチラシを作成し、当日開店前に役場の職員の方や清掃の方などに配布しました。チラシの効果もあって、開店前からお客様に並んでいただき、開店直後からたくさんの方に製品を手に取っていただきました。一般のお客様が相手ということで、緊張してしまう生徒もいましたが、事前に立てた目標を胸に、各自がそれぞれの方法でお客様とコミュニケーションを取りながら販売することができました。今年度は全製品が完売し、ご購入いただいたお客様の笑顔と「ありがとう」の言葉が大きな自信につながったと思います。

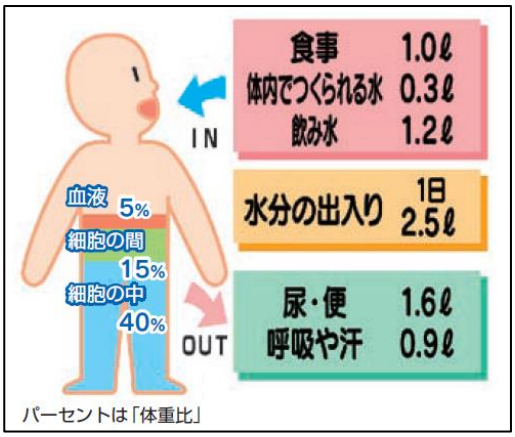
（高等部：安達　美登里）

特別支援教育コラム　健康情報　［冬の水分補給］

冬も水分補給？

水分補給と聞くと「夏」や「熱中症」のイメージがあり、冬の時期、寒くなってくると水分補給を意識することは少なくなるのではないでしょうか。

人間の体の約 60%は水分でできています。毎日、食べ物や飲み物などから 2～2.5 リットルの水分を取り、尿や便、汗などで同じくらいの量の水分を体から出しています。これは季節が変わってもあまり変化ありません。冬も夏と同じように、しっかり水分補給することが重要なのです。



子どもの場合は、脱水状態でもうまく伝えることができなかったり、喉の渇きを感じにくい場合があるので、大人が注意して見守る必要があります。水分補給の際は、一度にたくさんの水を飲むと体に負担がかかるため、できるだけこまめに摂取するのが理想です。

感染症対策に！

寒さも厳しくなり、インフルエンザなどの感染症も流行が始まりました。

感染症の対策でよく知られている、「うがい・手洗い」に加えて「水分補給」も大事な予防策のひとつです。感染症のウイルスは乾燥した状態で活発に活動し、反対に湿度 50%以上になると活動が急激に低下します。

私たちの体内の粘膜も乾燥すると、ウイルスに感染しやすく体調不良の原因になります。

水分補給は、喉や鼻の粘膜を潤してウイルスの侵入を防ぐとともに、侵入したウイルスを痰や鼻水によって体外に排出するのを助ける働きをします。

また、風邪を引いたときは、発熱・食欲低下・下痢・嘔吐などの症状により、体の外へ水分が多く出ていくため、普段以上に水分を補給することが大切です。

潤った元気な体で、冬を乗り切りましょう！

（健康安全部：阿部　美香）

＜はくようギャラリー＞

令和２年１月１６日（水）～２月５日（水）１５時まで、白糠町社会福祉センターロビー内（住所：白糠町東３条南１丁目２－３２　電話：０１５４７－２－２２８７）において、本校児童生徒が制作した作品を展示しております。今年度の学習の過程で制作したもの（絵画、工作、彫像、手芸など）を出品いたしますので、ご覧いただき日頃の本校の教育活動にご協力とご理解いただければと思います。

（学芸部：佐々木　彩乃）